

## 令和元年度 埼玉県立高等看護学院 学校評価

当学院では、毎年、職員・学生・保護者による学校運営評価を実施し、その結果を検討し学校運営を改善していくように検討を行っています。令和元年度に実施した評価結果は以下のようになります。

※ 学校評価は、10領域42項目について、4「良い」、3「やや良い」、2「やや不十分」、1「不十分」の4段階で評価を行っています。

### 評価項目と評価点

評価項目	I 教育理念 目的 人材育成像	II 学校運営	III 教育活動	IV 学修成果	V 学生支援	VI 教育環境	VII 学生募集	VIII 財務	IX 法令等の 遵守	X 社会貢献 地域貢献
令和 元年度	3.5	3.4	3.3	3.5	3.3	3.2	3.4	3.8	3.6	3.2

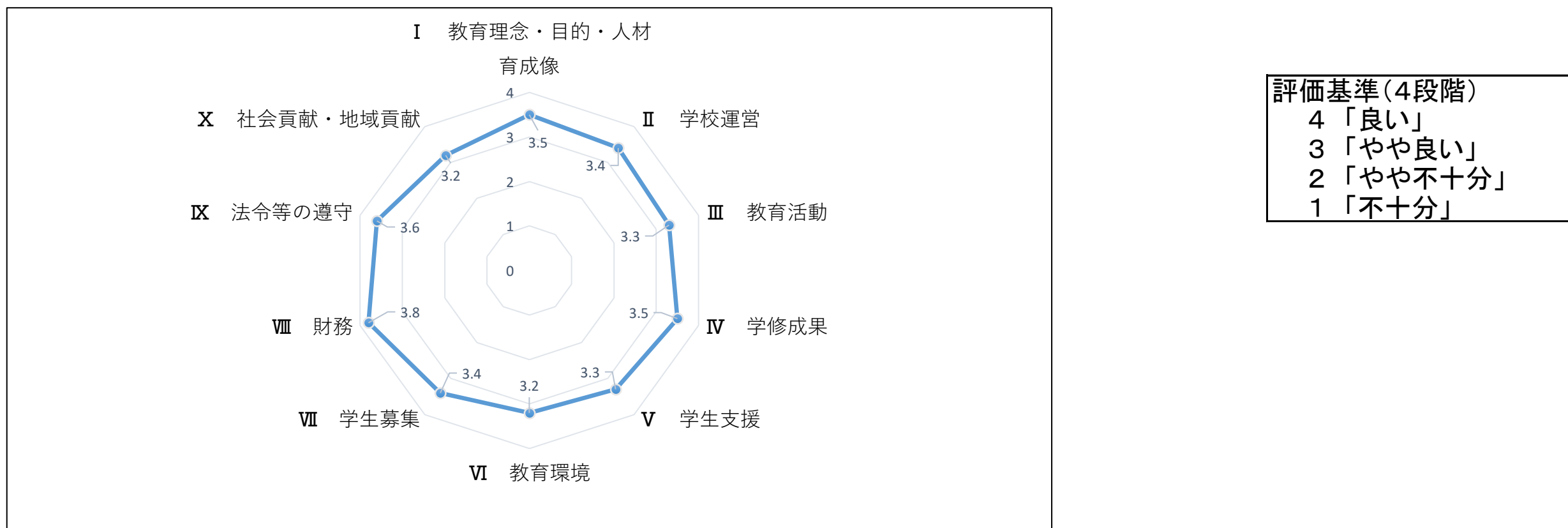


図1 令和元年度学校評価結果

埼玉県立高等看護学院学校関係者評価委員会は、「令和元年度学校評価」の評価結果に基づき10の項目に関して学校関係者評価を令和元年2月19日に実施いたしました。

### 1 学校関係者評価委員

氏名	所属先
廣瀬 京子	東京医療学院大学
町田 早苗	埼玉医科大学 医学部 医学研究センター
木島 明美	小川赤十字病院

### 2 学校関係者評価総評

#### I 教育理念

埼玉県立高等看護学院の理念に基づき、質の高い教育が実践されている。毎年の自己点検・自己評価結果をもとに教職員全員で総括され当該年度の課題を明確にし、客観性の高い評価となっている。

#### II 学校運営

県の施設として設置の存在意義も明確であり、問題なく管理運営されている。管理規定等、規程集として明文化され学生へも周知されている。組織体制についても組織図にて提示されており意思決定ルートも明確である。今後、学校運営に学生の意見が十分に反映されることを期待する。

#### III 教育活動

厳しい人員の中でカリキュラムポリシーに則り、教育理念、教育目的、教育目標と授業内容の一貫性があり、授業における工夫などにも努力の跡がみられている。全科目における授業評価も毎年行われており、質の高い教育実践がされていることがうかがえる。教育活動の中心となる教員の定年退職等に鑑み、今後、県立高等看護学院の内部質保証に向けた取り組みとして、FD・SD活動の計画や新任教員の段階的な育成のための取り組みが望まれる。

#### IV 学修成果

学ぶ存在としての学生自身が評価結果をもとに自己の振り返りができるよう、学修成果の可視化が望まれる。シラバスの活用について、学生、教員間で共有する体制を期待する。また、評価についてはGPAの明確な明示なども考慮していただきたい。

#### V 学生支援

キャリア支援としての進路・就職支援や卒業生の離職防止に向けたホームカミングデー実施など多岐にわたりタイムリーな支援が提供されていることは評価できる。また、就職率100%は細やかな支援の成果である。保護者、学生満足度調査との乖離が一部見られているので課題を明確にする必要がある。

#### VI 教育環境

新在宅実習室の整備、学生寮の食堂の改修、モデル人形の購入と学生の学びの保証にむけた整備は評価できる。今後、令和4年のカリキュラム改正に向けた計画的な備品購入や看護学教育の質の向上に向けた一層の教育環境整備を期待する。

#### VII 学生募集

アドミッションポリシーに則り、入学生の学生募集がなされているが、志願者の減少がみられている。外部に向けたホームページ改善の取組が行われているところであるが、今後、18歳人口の大幅な減少（2017年119万人⇒2040年88万人）に鑑み、志願者の増加に向けた取り組みは大きな課題である。

#### VIII 管理運営・財務

県の財務規程に基づき予算執行されている。監査委員による財務監査や委員監査においても問題なく運営されている。

#### IX 法令等の遵守

問題なく法令遵守されている。

#### X 社会貢献・地域貢献

地域における実習施設でのボランティア活動が例年行われていることが実践記録から確認できる。今後、地域に開かれた学校として地域住民を対象にした健康講座や公開授業など地域社会への貢献として具体的な取り組みを期待する。

#### 総評

教育の質の担保に向けた教育実践がなされており、教職員一丸となって質の高い教育活動が行われている。学校評価の評価項目と評価指標の内容の一部ばらつきがみられるためルーブリック評価導入等一層のブラッシュアップが必要となる。今後、自校の存在意義を可視化し益々の発展を期待するものである。